

2025年度 第1回理事会 議事録

日時：2025年3月29日（土）13:00～15:10

開催方法：ハイブリッド開催（Zoom ミーティング、学会事務局）

議事録署名人：出席した理事長、副理事長、監事

事務所出席：大西宏明理事長、吉田博会計理事、森兼啓太総務理事、
増田亜希子、松下弘道各理事 末廣寛支部理事 山田俊幸各監事、
野澤孝志会計顧問（8名）

Web出席：柳原克紀副理事長、松下一之、堀田多恵子、井上克枝、上原剛、下澤達雄、山崎正晴各理事
高橋聡、志村浩己、中山智祥、伊藤弘康、橋口照人各支部理事、諏訪部章監事（13名）

欠席：長尾美紀理事（1名）

I 開会、理事長挨拶（大西宏明 理事長）

冒頭、挨拶があり、過半数の理事が出席していることを確認し開催要件を満たしていることが告げられ理事会（理事総会）を開始した。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2025～2026年度の支部例会・総会の開催報告と予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 保険診療委員会（森兼啓太 担当理事、松下一之 委員長）

R8診療報酬スケジュール、R8診療報酬改定の要望は当学会と日本臨床検査振興協議会と合同で検討し、当学会（未収載：1項目）、既収載（21項目）、日本臨床検査専門医会（既収載7項目）で要望書提出の予定であること、HL7-FHIRに必要なJLAC11への対応について、2024年4月1日からJLAC10/11管理体制とJLACセンターが稼働を開始したこと、は内保連加盟学会全部にJLACコードの実装状況を調査する方向となったため検査コード標準化が内保連の重点調査項目になったこと等が報告された。

2) 標準化委員会（増田亜希子 担当理事）

C ペプチド測定試薬の標準化に向けて、浜松医科大学の山下計太副委員長を中心に浜松医科大学で多施設共同研究の倫理申請が承認され標準化作業が進行していること、企業から新規に開発したTSH測定試薬とFT4測定試薬の標準化への質問、臨床判断値と基準範囲の設定についての質問があり、回答案を作成し常任理事会に報告したことが報告された。

3) 利益相反委員会（山崎正晴 担当理事）

2024年11月29日（金）、第71回学術集会（大阪）において、「今、求められる利益相反管理とは？」、委員会企画を開催したこと、学会HPのCOI参考資料の差し替え、学会の「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」および「細則」の改定案、およびに学会の組織COI開示について理事会へ諮問したことが報告された。

4) ワークライフバランス委員会（松下弘道 担当理事）

第71回学術集会（2024年11月大阪）で、委員会企画として「ライフイベントと仕事：両立できたか？できるのか？」、「検査医の集い：対面懇親会」を開催したこと、臨床検査専門医取得に関するサポートセンターは継続的に相談対応をしていること、第72回学術集会（2025年8月千葉）で、委員会企画を、9月7日に東北支部と共催で第2回医学生・研修医のための臨床検査セミナーを行う予定であることが報告された。

3. 第72回学術集会報告（千葉2025/8/28(木)～8/31(日)、大西宏明 会長）大西宏明 会長

2025年8月28日（木）～31日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、大西宏明会長（杏林大）のもと開催予定であり、安戸裕貴副会長、宮城博幸事務局長、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベン

ションが担当し、現地と一部オンデマンド配信を予定していること、開催時期が8月下旬であるため、演題募集期間は2025年2月13日(木)～4月3日(木)を予定していること、企業共催セミナー募集の協力依頼があった。また、暑い時期での開催のため軽装での参加が呼びかけられた。

4. 第73回学術集会報告(千葉2026/12/17(木)～12/20(日)、吉田博 会長)(吉田博 会長)

2026年12月17日(木)～20日(日)、千葉県幕張メッセにおいて、吉田博会長(慈恵医大)のもと、「プラマタリーヘルスと進む新時代の医療～プラットフォームを担う臨床検査医学～」をテーマに開催予定であり、越智小枝副大会長、政木隆博事務局長、運営事務局は(株)サンプルネットメディカルコンベンションが担当し、現地と一部オンデマンド配信を予定していることが報告された。

5. 第74回学術集会報告(宇都宮2027/11/11(木)～11/14(日)、森兼啓太 会長)(森兼啓太 会長)

2027年11月11日(木)～14日(日)、ライトキューブ宇都宮において、森兼啓太会長(山形大)のもと、運営事務局は(株)サンプルネットメディカルコンベンション担当し開催予定であることが報告された。

6. 第34回世界病理学・臨床検査医学会議について(インド2025/10/14(火)～10/17(金)) (大西宏明 理事長)

2025年10月14日(火)～10月17日(金)、インド(Pune)において、第34回世界病理学・臨床検査医学会議(共催: Congress of the Indian Association of Clinical Biochemistry the 4th International Meeting of Residents in Pathology/Laboratory Medicine)が開催予定であり、日本から、国際委員会が企画する「Laboratory Medicine at the Frontier of Patient-Centered Care」を主題として講演者を数名選定予定であることが報告された。

7. 臨床検査専門医・管理医認定試験について(東京2025/8/3(日)、2025/9/23(火;祝))(大西宏明 理事長)

2025年度実施 第5回日本専門医機構認定臨床検査専門医および第42回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験は、2025年8月3日(日)、東京大学医学部附属病院に於いて、佐藤雅哉実行委員長のもと実施予定であること、2025年度実施 第17回臨床検査管理医講習・認定試験は2025年9月23日(火:祝日)、三井記念病院7F講堂に於いて、金子誠実行委員長のもと実施予定であることが報告された。

8. 本学会からの関連団体委員推薦について(更新)(大西宏明 理事長)

前回理事会(2024年10月26日)以降に当学会から推薦された委員等について報告された。

9. 2025年度臨時社員総会の開催について(大西宏明 理事長)

例年、臨時社員総会は学術集会前日に開催しているが、今年の学術集会開催が8月末で、事業報告、中間会計報告・予算、新評議員の推薦等について、その前にまとめることが困難なため、学術集会前日には開催せずに例年の11月中下旬にオンラインで開催することが報告された。

10. 2025年度学会賞: 功労賞・河合忠賞推薦依頼について(大西宏明 理事長)

2025年度学会賞: 功労賞・河合忠賞の規定に合致した候補者について、6月30日までに理由を添えたうえでの推薦依頼がなされた。

11. その他

・支部活動費、第73回学術集会補助金送金について(吉田博 会計理事)

4月に支部活動費として一律20万円+(500円×2024年度支部会員数)で送金予定である、2024年度支部会計報告を提出依頼すること、第73回学術集会補助金として100万円を送金予定であることが報告された

III 審議事項

1. 2024年度に係わる事業報告について(森兼啓太 総務理事)

事業報告書が提示され、会議、会員数、関連団体行事、事業概要として経過及び実績、活動、各種委員会活動、英文誌の刊行、対処すべき課題として学会の活性化、社会が求める学会および機構専門医、管理医の養成、臨床検査に関わる倫理観の向上、英文誌の発行、法人の概況(主な事業内容、社員数、役員数と氏名)、

委員会活動等について報告があり、ただ、会員の高齢化と総会員数の減少がみられるが、継続して検討していくことが述べられ、承認された。

2. 2024 年度会計収支決算報告について (吉田博 会計理事)

負債、資産が記載された貸借対照表、一般会計、特別会計、学会賞基金、アジア交流基金、第 70 回学術集会報告、監査報告書が提示された。

資産合計は約 1 億 8 千万円である。一般会計では正会員収入が予算比 400 万円相当、専門医関連収入も 200 万円程度マイナスとなっている。事業収入として、第 70 回学術集会から 450 万円程の収支差額を一般会計に組み入れていただいた。支出は、機関誌費用、事業費、管理費などが予算に比べて少なく済んだ。その結果、一般会計は約 230 万円の赤字となった。

特別会計では、ガイドライン作成費用の補助 500 万円を支出した。アジア交流基金は特に動きはなかった。学会賞基金は 2024 年度学会賞と国際学会奨励賞の副賞の支出をした。第 70 回学術集会報告は、収入、支出の概要、収支差額 450 万円あり、学会の一般会計に組み入れた。以上が報告された。

会計監査 (諏訪部章 監事)

2025 年 3 月 6 日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務遂行、会計報告書類は正しく記載し合致しておりの確であると監査報告があった。そのうえで、2024 年度会計収支決算は承認された。

3. 2024・2025 年度委員会 新規委員会設置、委員の追加、変更について (大西宏明 理事長)

専門医制度委員会の設置と委員構成、試験委員会委員構成、EBLM 委員会とガイドライン作成委員会の委員長交代、EBLM 委員会、チーム委員会、ワークライフバランス委員会の委員追加の報告があり承認された。

4. 選挙管理委員会の設置について (大西宏明 理事長)

2026・2027 年度理事、2026・2027・2028・2029 年度監事選挙を行うことになっており、選挙管理委員会設置が必要なため、まずは委員長を指名して委員会を構成いただくこととし、その委員長にはメ谷直人先生を指名する提案があり承認された。なお、今年の選挙より、会員マイページの投票機能を使用予定であることも報告された。

5. 名誉臨床検査専門医制度の改定について (大西宏明 理事長、専門医制度委員会 担当理事吉田博、松下弘道 委員長)

従来名誉臨床検査専門医規程では、65 歳以上で 1 度臨床検査専門医更新している必要があったが、改定案は機構専門医、学会専門医を 65 歳以上で 1 度以上更新した場合、60 歳以上の更新時点で、機構専門医あるいは学会専門医を合計 3 回以上更新した場合と改定する提案があり承認された。

6. COI 指針、細則の改定について (大西宏明 理事長、利益相反委員会山崎正晴 委員長)

COI 指針、細則の改定に関して利益相反委員会より提案され、学会として学術集会、特別例会（支部総会、例会は対象外）での企業からの寄付金等（資金提供状況）を、ホームページに掲載していくことが承認された。COI 開示については、利益相反委員会でガイドライン作成委員会等関係する委員会と検討して改定することとなった。

7. 2026 年度からの名誉会員、功労会員候補者と評議員推薦依頼について (大西宏明 理事長)

2025 年度臨時社員総会は報告事項のとおり 11 月中下旬に Web 開催となると学術集会で表彰式に間に合わないため、2026 年からの功労会員候補者（名誉会員：今回は無し）の承認を 3 月の定時社員総会で承認を得ておく必要がある。2026 年からの功労会員候補者について北海道支部 1 名、東北支部 1 名、関東・甲信越支部 2 名、近畿支部 4 名、中国・四国支部 3 名、九州支部 1 名の提案があり承認された。

2026 年からの評議員候補者については、評議員の資格要件、支部正会員の 10%の評議員候補者定員数が示され、9 月 30 日までに資格要件が合致し、都道府県別、所属機関別に偏らないよう確認、検討のうえでの推薦の依頼がなされた。

8. 第75回学術集会（2028年度）会長について（大西宏明 理事長）

北海道支部と中国・四国支部に推薦依頼することが提案され承認され、2支部に推薦依頼がなされた。

9. 委員会の統合について（大西宏明 理事長）

現在、委員会は30以上あり多い状態である。以前、10委員会程に統合した経緯がある。会員の年齢構成の表が資料として提示され、実働可能年齢の会員の減少が見受けられ、現委員会でも複数委員会を掛け持ちしている委員が多いといった実情があるため、委員会の数を減らし負担を減らしていく提案され、その方向で検討することが承認された。

10. 遺伝子関連検査精度管理医について（松下弘道 遺伝子関連検査認定医・専門医アドホック委員会 担当理事）

遺伝子関連検査認定医・専門医の認定制度については、昨年、他学会専門医への認定は見送り、当学会専門医を対象とすることが報告されていたが、その後の進捗状況が報告され下記内容が承認された。なお、今後、委員会に遺伝子関連検査制度管理医制度規程を策定いただく。

名称：他学会との差別化も考慮して遺伝子関連検査精度管理医とする。

認定対象：日本専門医機構認定臨床検査専門医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医とする。

認定方法：必要なオンライン講習を受講して専門医更新時に申請する。

認定期間：専門医と同時期、同認定期間とする。

開始日：2025年度中に講習受講開始して2026年1月1日からの認定を考えているが、準備状況により1年遅れになる可能性もある。

対象の講習：サンブネットメディカルプライムでのe-learningとし、日本遺伝子診療学会と日本臨床検査専門医会での大会の講演をコンテンツとして確認テストをする。

11. 担当理事と委員長の役割分担について（大西宏明 理事長）

本学会における委員会の委員長と担当理事の役割分担が明確ではないと思われるため、役割分担を明確にし、その内容を申し合わせとすることが提案され、以下の内容で役割分担の申し合わせとして承認された。

- (1) 委員会は委員長が主体的な立場で活動する。
- (2) 担当理事の役割は以下の通りとする。
 - ①委員長から委員会活動に関する報告を受け、理事会で報告する。
 - ②理事会からの意見・指示を委員会に伝える。
 - ③委員長からアドバイスを求められた際に、必要に応じてサポートする。

12. 学会誌（和文誌）の隔月化について（大西宏明 理事長、吉田博 編集委員会 担当理事）

日本臨床検査医学会誌は毎月発行されているが投稿の減少でページ数も減っている。また、英文誌が年4回発行され順調に運用されている。作成費、送料等の費用が抑えられるメリットもあるため日本臨床検査医学会誌の発行を隔月化する提案があり承認された。今後、編集委員会で開始時期、その他詳細を検討いただく。

13. 同学院からの検討事項について（大西宏明 理事長）

1) 臨床検査士資格認定について

日本臨床検査医学会定款には当会は臨床検査士資格認定を行うと記載されており、同学院の試験委員会規程には当学会と共催すると記載されている。当会細則の臨床検査士資格認定制度運用規則の第4条はこれらの内容とは乖離しているため運用規則の4条を改定すべきと提案があり、当学会会則改定委員会で整合性のある定款、細則に改定していくこと、また同学院の担当部署との会合を持つことが承認された。

2) 同学院の認定試験について

試験会場の確保も難しくなっていることが同学院より要望があったことについては、現時点では解決策が見当たらないため継続して検討していくこととなった。

3) 同学院理事について

昨年末に同学院より近畿支部、中国・四国支部、九州支部から理事の派遣依頼があり、中国・四国支部と九州支部からはそれぞれ推薦が可能だったが近畿支部は試験を実施する負担を考えると推薦不可という状況だったことが報告された。

14. ASCPaLMについて（大西宏明 理事長）

ASCPaLMの講演者として参加の場合、補助が必要と考える、そのため、学術集会などで余剰金が多くあった場合は、アジア交流基金に50万円あるいは30万円程度を繰り入れていき、その際の旅費の補助とする提案があり承認された。

15. JLAC標準協議会について（大西宏明 理事長）

JLAC11の運用を進めるにあたり JLAC 標準協議会を設置しているが、当学会より（JLAC コード運用協議会）派遣委員として内海健先生（検査項目コード委員会委員長）を推薦することが報告され承認された。

16. その他（大西宏明 理事長）

1) 第13回特別例会例会長について

2027年3月～4月に第32回日本医学会総会が開催されるが、当学会ではそれに合わせて特別例会を開催している。今回は大阪での開催のため、近畿支部に特別例会長の推薦依頼がなされた。

2) タスクシフト/シェアについて

日本学術会議第26期臨床医学委員会放射線・臨床検査・病理分科会が開催され当学会関連の委員も参加しているが、タスクシフトに関する重要な意見交換があった。日本病理学会と日本臨床衛生検査技師会はWGを設置して議論し、近々に共同声明を発表する予定という状況であるため、当学会でも同様の作業を進めすべきとの意見があり、日臨技と当学会でガイドラインまではいかなくても協調して進めたいと報告され、進めていくこととなった。

3) ISO/TC212 について

ISO15189 ガイドライン作成委員会の1、遺伝子関連について、当学会から委員を派遣したいため、常任理事、理事からの立候補、推薦依頼がなされた。

3) 2025年度 理事会日程

森兼啓太総務理事より、2025年度、2026年度の理事会と定時社員総会の予定が報告された。

第2回理事会：7月19日（土）13：00～16：00

第3回理事会：10-11月を予定

VI 閉会

柳原克紀副理事長より閉会にあたり挨拶があり本理事会は閉会された。

以上

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する

2025年4月24日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長 大西宏明 印

副理事長 柳原克紀 印

監事 諏訪部章 印

監事 山田俊幸 印